

令和4年度第2回川口市社会福祉審議会児童福祉専門分科会

資料 1

(参考)

(仮称) 川口市子ども条例 子ども向けアンケート調査結果について

【調査概要】

1 調査目的

(仮称) 川口市子ども条例の検討にあたり、子どもの視点や意見を表明する場を大切にする観点から、子どもに対して直接アンケート調査を実施し、子どもが置かれている現状、全ての子どもの健やかな成長を醸成するために必要なこと、その他今後の子ども・子育て支援の推進に必要なことを把握するもの。

2 調査対象

- ・市内の小学校に通う小学 5 年生全員
- ・市内の中学校に通う中学 2 年生全員
- ・川口市立高等学校に通う高校 2 年生全員

3 調査期間

令和 4 年 7 月 5 日～7 月 2 0 日

4 調査方法

各学校から子どもにオンラインで調査フォーム（無記名）を送信し、回答を得た。

5 回答状況

(1) 対象者数（令和 4 年 5 月 1 日時点の児童・生徒数）

9,693 人（うち、小学生 4,791 人、中学生 4,503 人、高校生 399 人）

(2) 回答者数

7,016 人（うち、小学生 3,864 人、中学生 2,779 人、高校生 373 人）

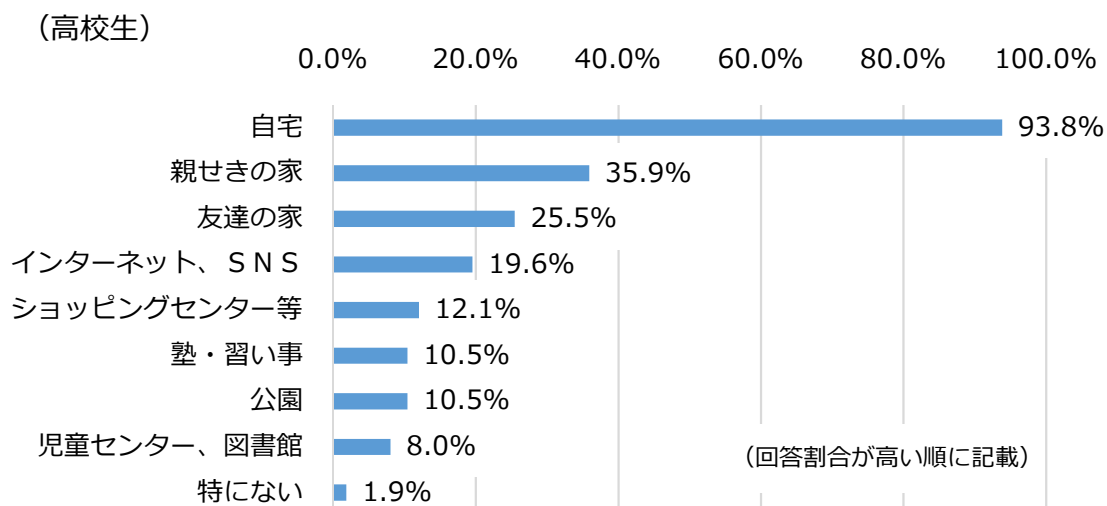
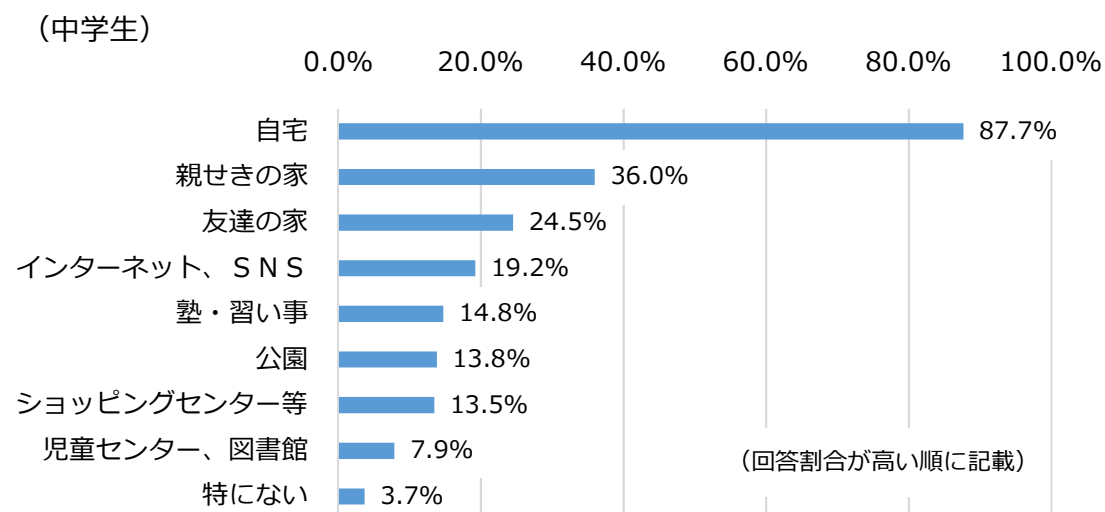
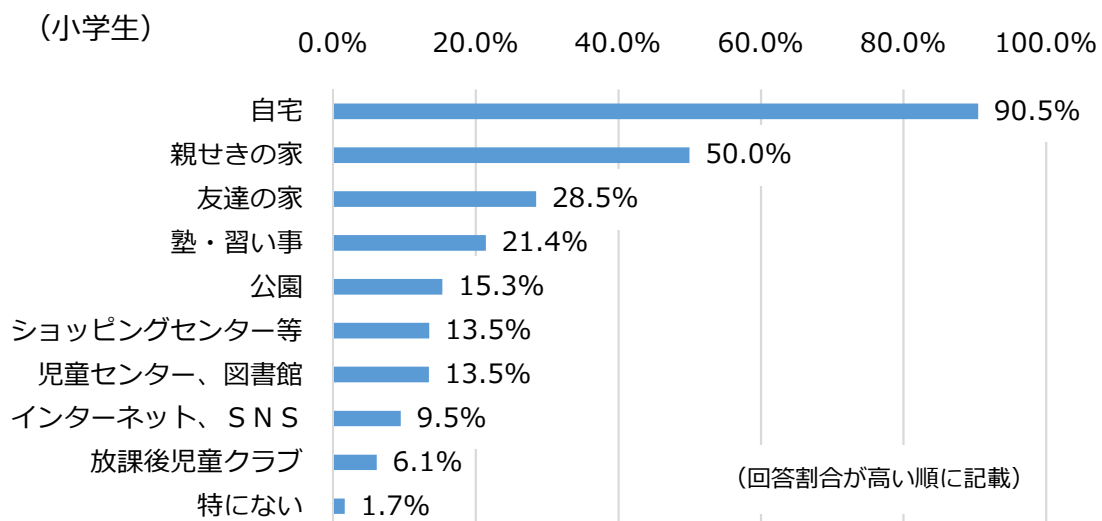
(3) 回答率

72.4%（うち、小学生 80.7%、中学生 61.7%、高校生 93.5%）

【調査結果】

※設問 1 は、学校種別を問うものであるため省略

設問 2 あなたが安心して過ごせる場所はどこですか。【複数回答可】



【「その他」の内容（抜粋）】

カフェ、文房具屋、自然の中、旅行先・ホテル、自分の部屋、一人になれる場所、グラウンド・コート、ゲームの中 など

どの学校種別においても、「自宅」、「親せきの家」、「友達の家」を選んだ子どもの割合が高くなっています。また、「インターネット、SNS」について、「小学生」が9.5%となっているのに対し、「中学生」は19.2%、「高校生」は19.6%となっており、「インターネット、SNS」を安心できる場所として考えている割合が高くなっています。

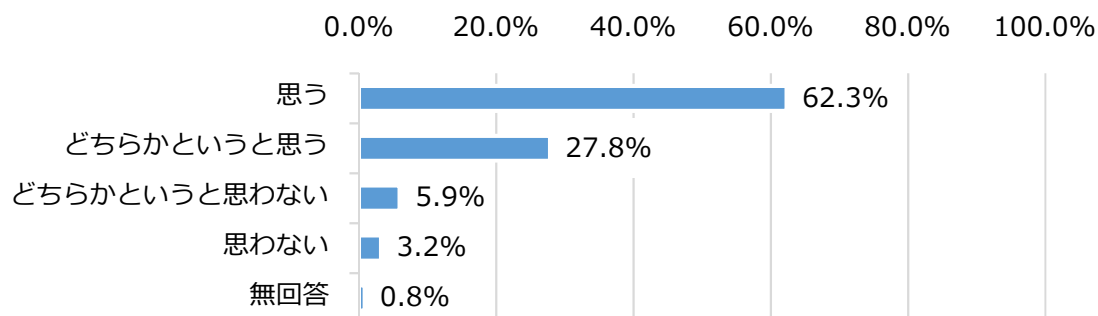
設問3 設問2の回答について、なぜ安心できると感じますか。

（抜粋・順不同）

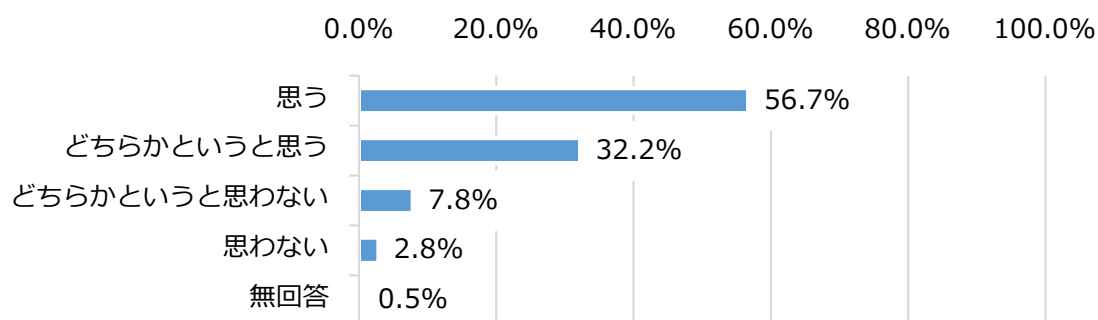
- ・ 家族、友達と一緒にいると安心するから
- ・ 静かな場所だから
- ・ 一人でいられるから
- ・ 楽しいから、遊べるから
- ・ 毎日そこで過ごしているから
- ・ 落ち着くから
- ・ 安全だから
- ・ インターネットだと同じものが好きな人がたくさんいて、話していて楽しいから
- ・ ネットでは、信用できる友達がいるから
- ・ なんとなく
- ・ 長年住んでいるから
- ・ 誰にも文句を言われたいから
- ・ においが安心するから
- ・ 怒る人がいないから
- ・ 誰にも縛られないから
- ・ 他者に気をつかう必要がないから
- ・ 自由に過ごせるから
- ・ 自分の顔が見られないし、色々な意見を知れる事が面白いから
- ・ 自分の相談にのってくれるから
- ・ だれも本当の自分、リアルの自分を知らないから など

設問4 あなたは、家族に自分の考えが大切にされていると思いますか。

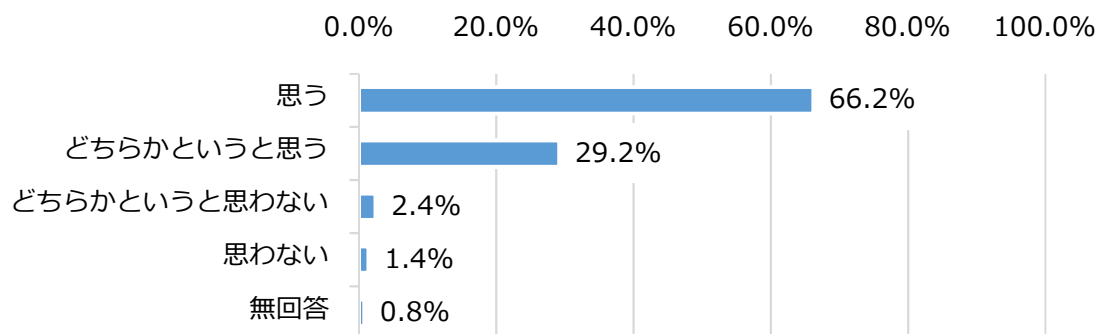
(小学生)



(中学生)



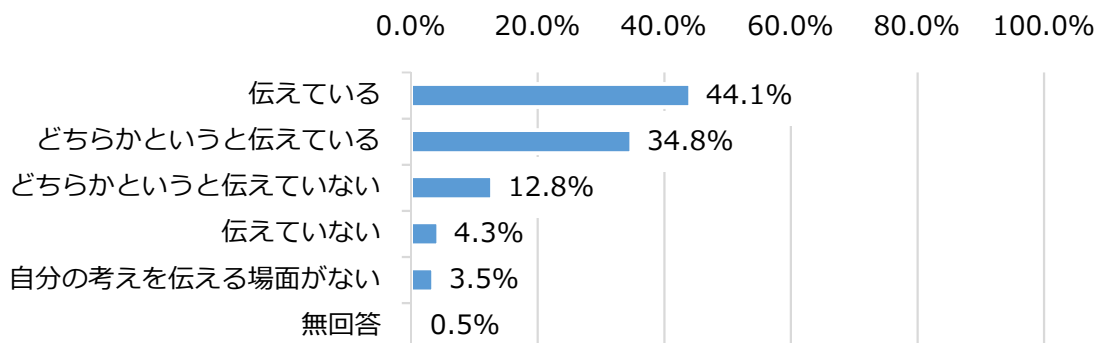
(高校生)



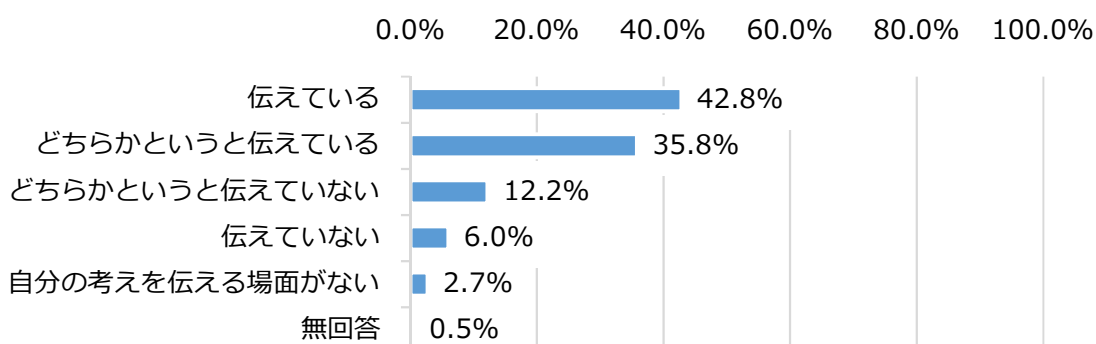
どの学校種別においても、8割以上の子どもが「思う」又は「どちらかというと思う」を選択しており、家族に自分の考えが大切にされていると考える割合が高くなっていますが、約1割の子どもが「どちらかというと思わない」又は「思わない」を選択しています。

設問5 あなたは、家族に自分の考えをはっきり伝えていますか。

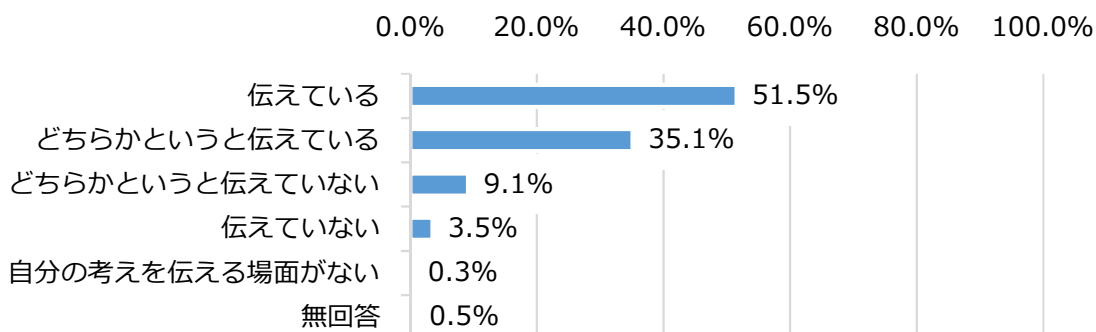
(小学生)



(中学生)

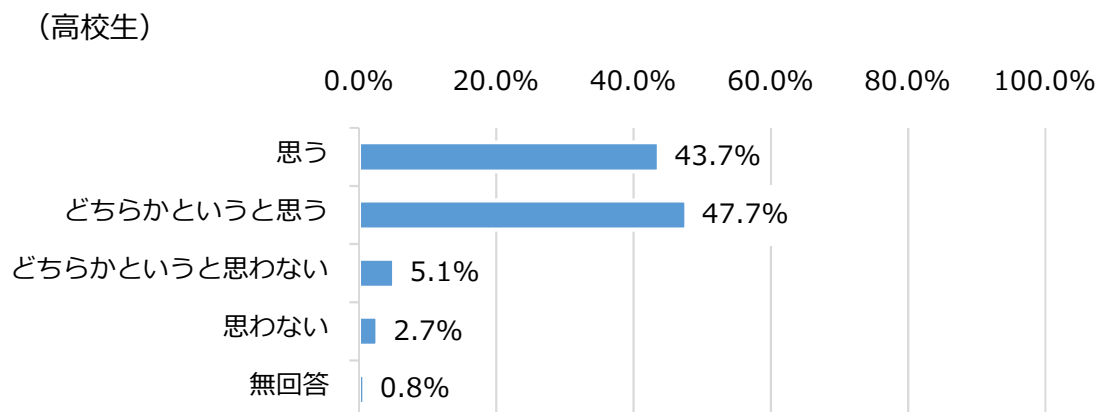
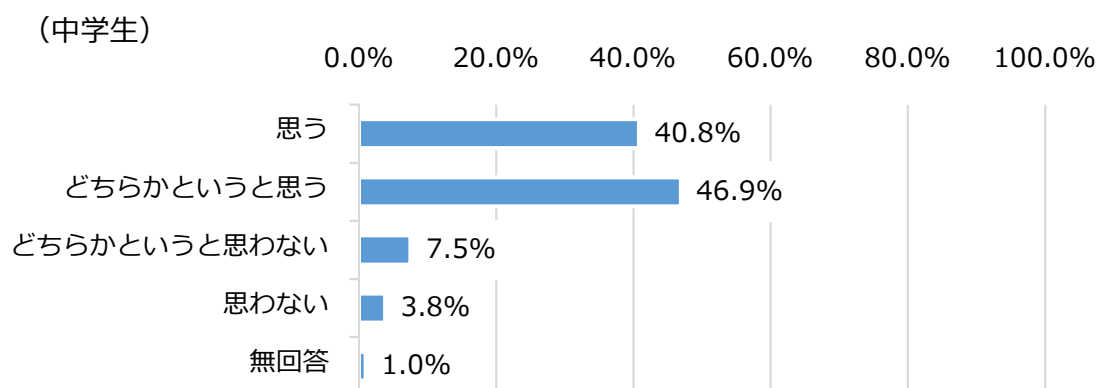
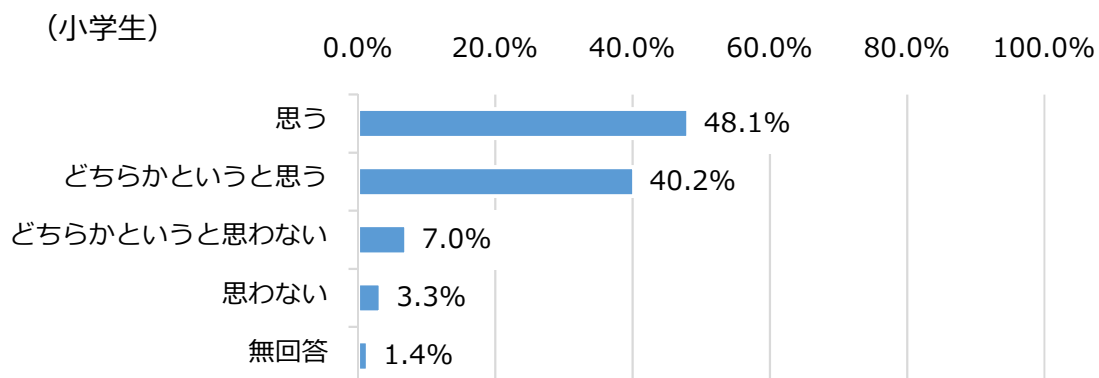


(高校生)



どの学校種別においても、7割以上の子どもが「伝えている」又は「どちらかという伝えている」を選択しており、家族に自分の考えをはっきり伝えていると考える割合が高くなっていますが、小中学生の約2割、高校生の約1割が「どちらかという伝えていない」、「伝えていない」、又は「自分の考えを伝える場面がない」を選択しています。

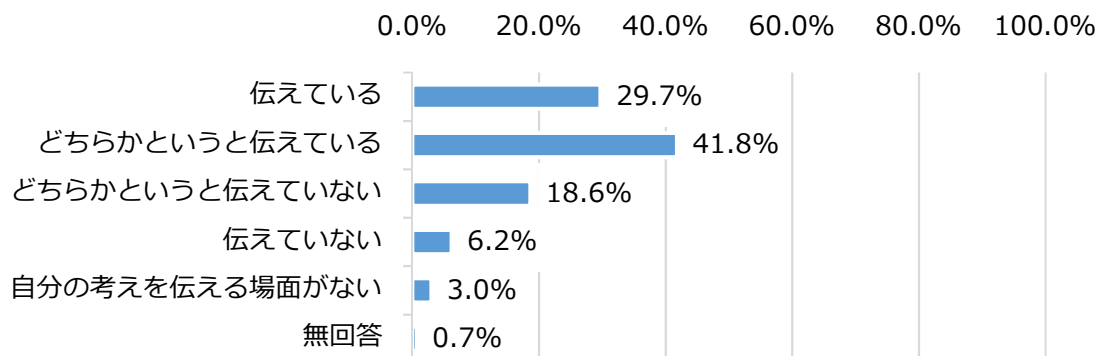
設問6 あなたは、学校の先生に自分の考えが大切にされていると思いますか。



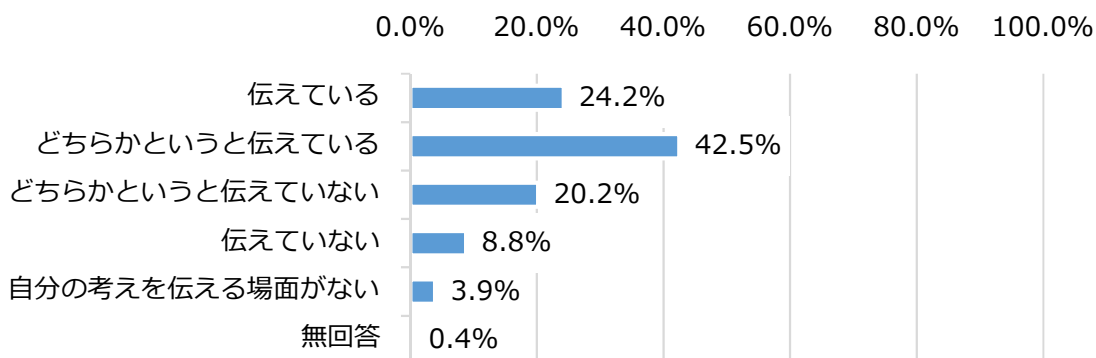
どの学校種別においても、8割以上の子どもが「思う」又は「どちらかというと思う」を選択しており、学校の先生に自分の考えが大切にされていると考える割合が高くなっています。また、設問4に比べて「どちらかというと思う」の割合が高くなっています。

設問7 あなたは、学校の先生に自分の考えをはっきり伝えていますか。

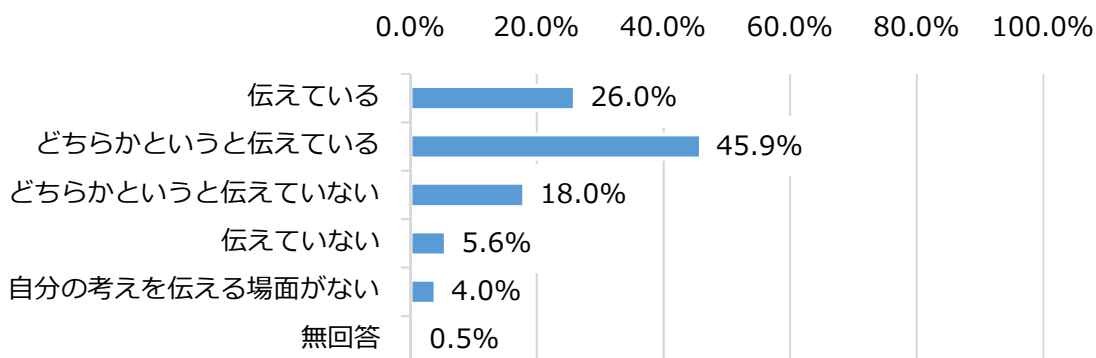
(小学生)



(中学生)



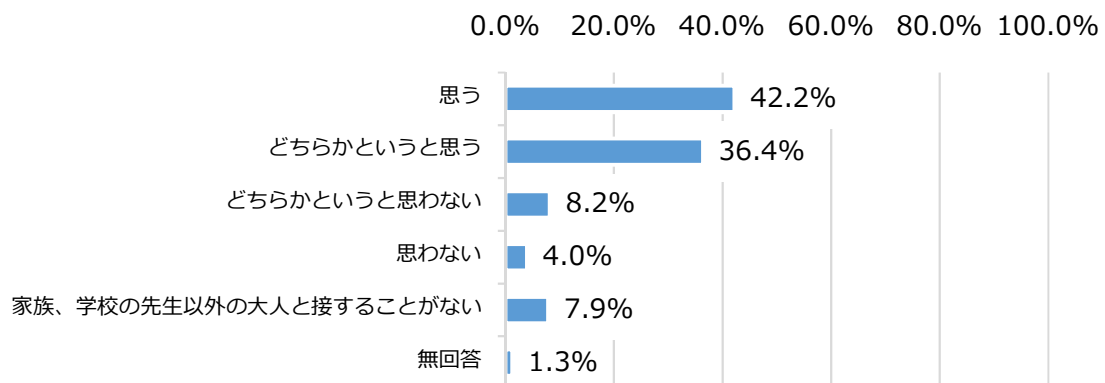
(高校生)



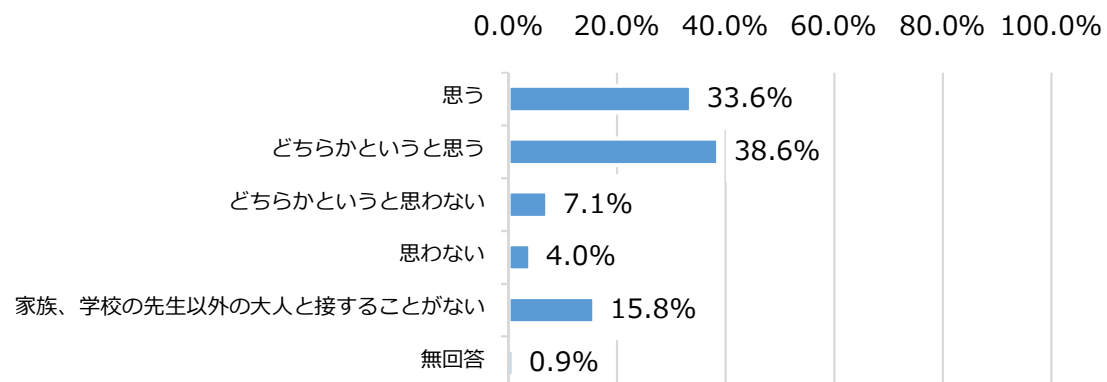
どの学校種別においても、設問5と比べて「伝えている」又は「どちらかという伝えている」の割合が低くなっています。また、2割以上の子どもが「どちらかという伝えていない」、「伝えていない」又は「自分の考えを伝える場面がない」と回答しています。

設問8 あなたは、例えば塾（じゅく）、習い事や児童センターなどにいる、家族と学校の先生以外の大人に自分の考えが大切にされていると思いますか。

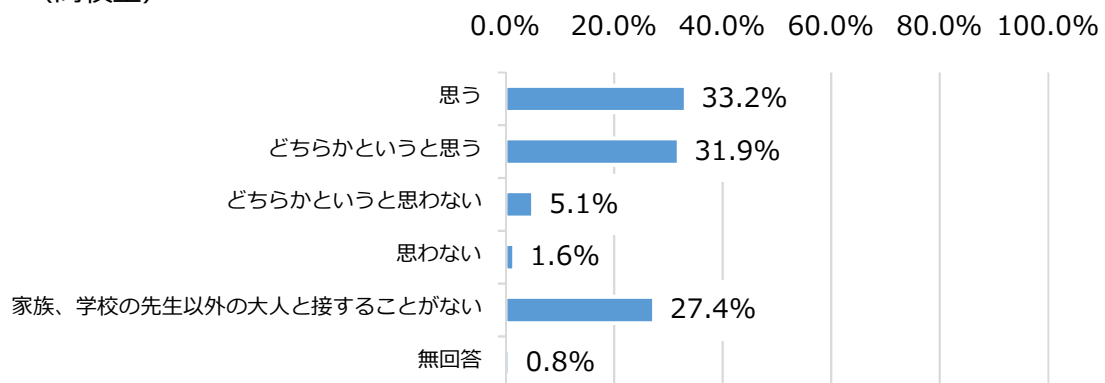
(小学生)



(中学生)



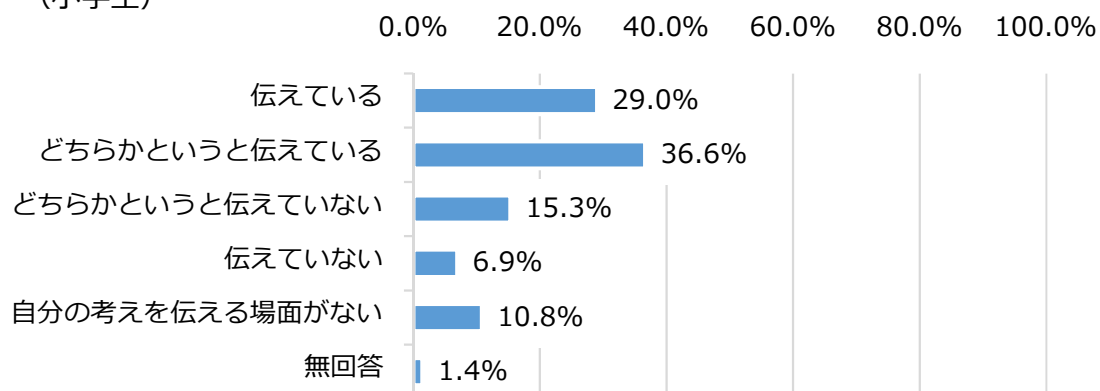
(高校生)



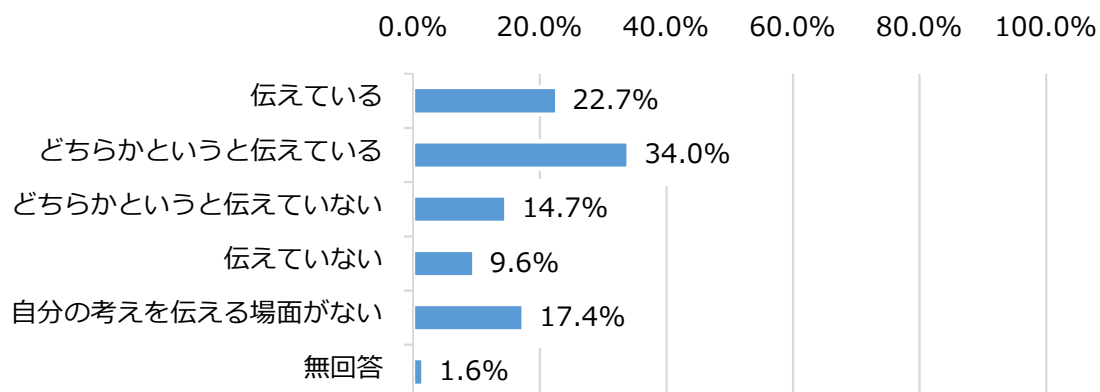
「小学生」と「中学生」については7割以上が「思う」又は「どちらかというと思う」を選択しています。年齢が高くなるにつれて「家族、学校の先生以外の大人と接することがない」の割合が高くなり、「高校生」については27.4%が「家族、学校の先生以外の大人と接することがない」を選択しています。

設問9 あなたは、例えば塾（じゅく）、習い事や児童センターなどにいる、家族と学校の先生以外の大人に自分の考えをはっきり伝えていますか。

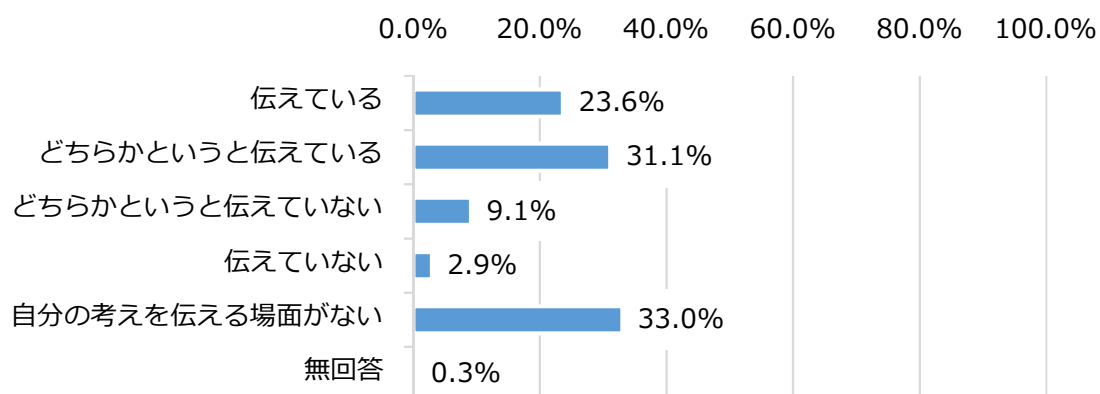
(小学生)



(中学生)



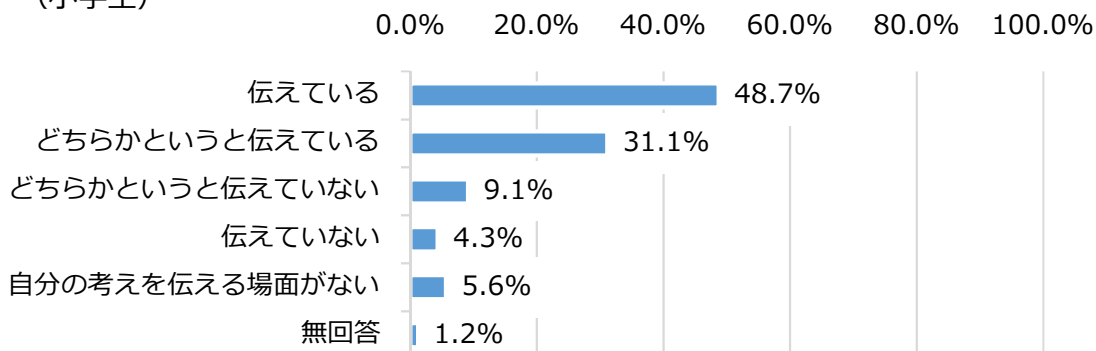
(高校生)



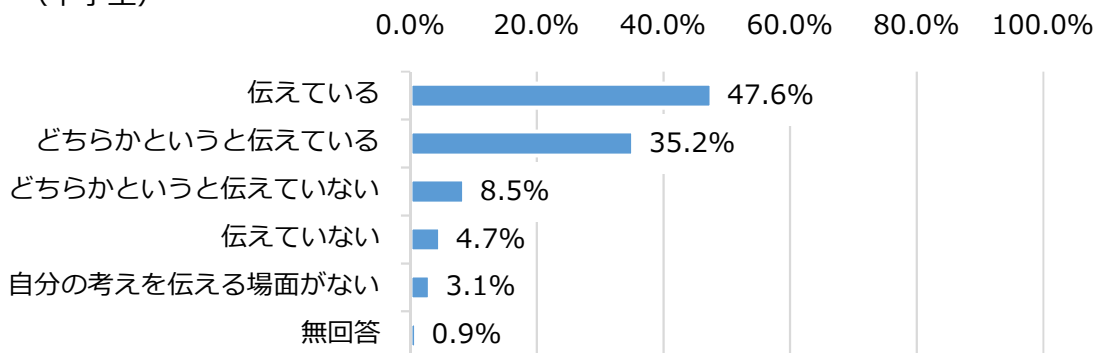
「小学生」と「中学生」については、2割以上が「どちらかという伝えていない」又は「伝えていない」を選択しています。また、設問8と同様、年齢が高くなるにつれて「自分の考えを伝える場面がない」の割合が高くなっています。

設問10 あなたは、学校や塾（じゅく）の友だちに自分の考えをはっきり伝えてい
ますか。

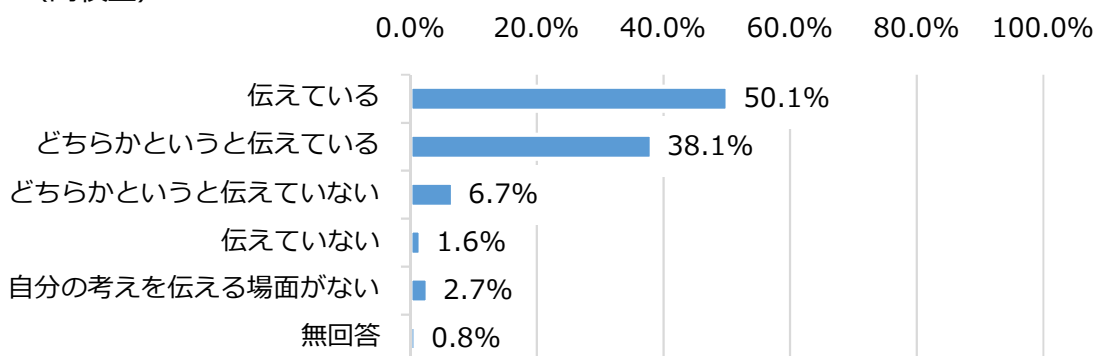
(小学生)



(中学生)



(高校生)

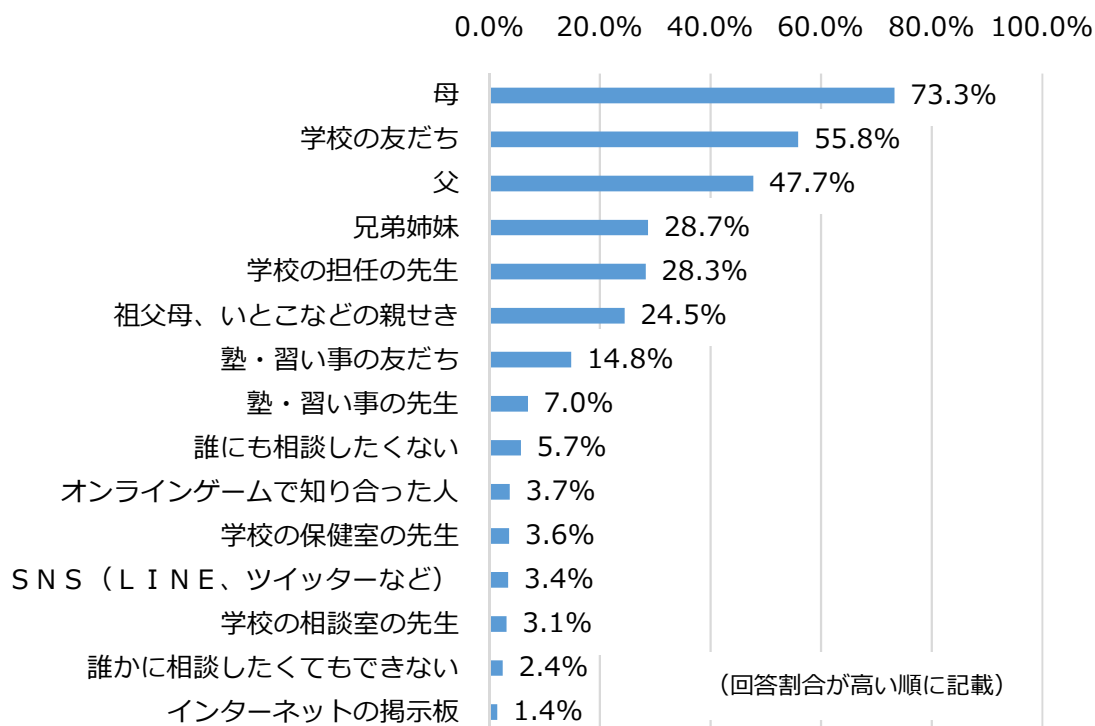


どの学校種別においても、8割程度の子どもが「伝えている」又は「どちらかという
と伝えている」を選択しており、友達に自分の考えをはっきり伝えている割合が高くな
っていますが、約1～2割の子どもが「どちらかというと伝えていない」、「伝えていな
い」又は「自分の考えを伝える場面がない」を選択しています。

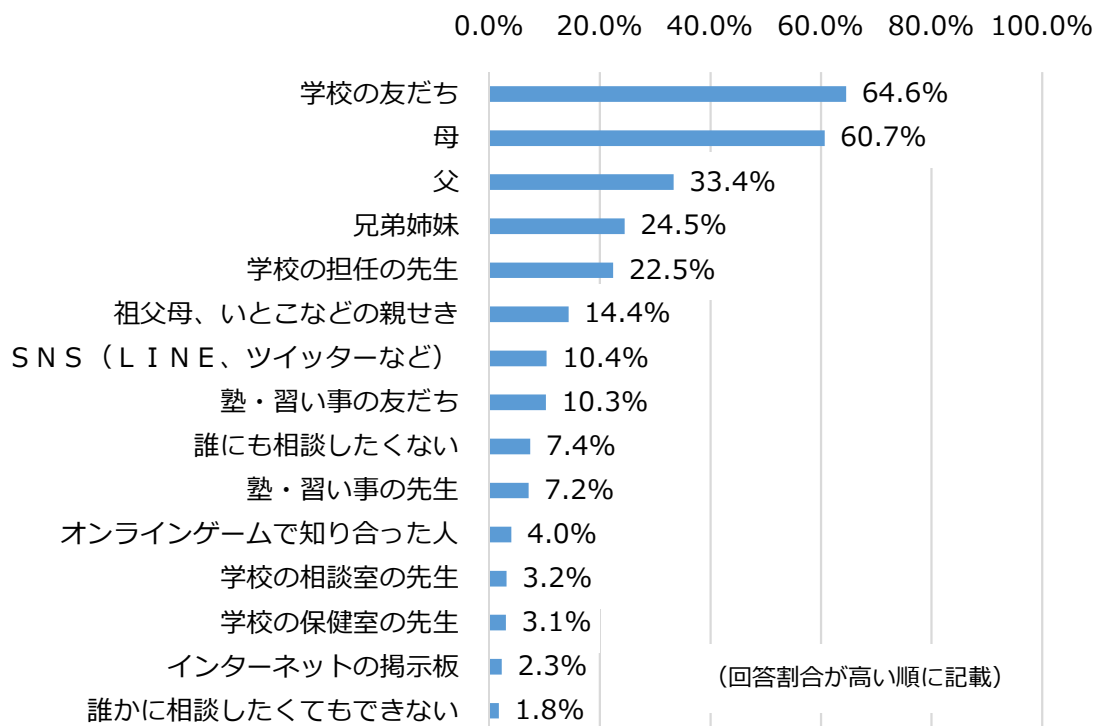
設問11 あなたは、困りごとや悩みごとがあるときに誰に相談しますか。

【複数回答可】

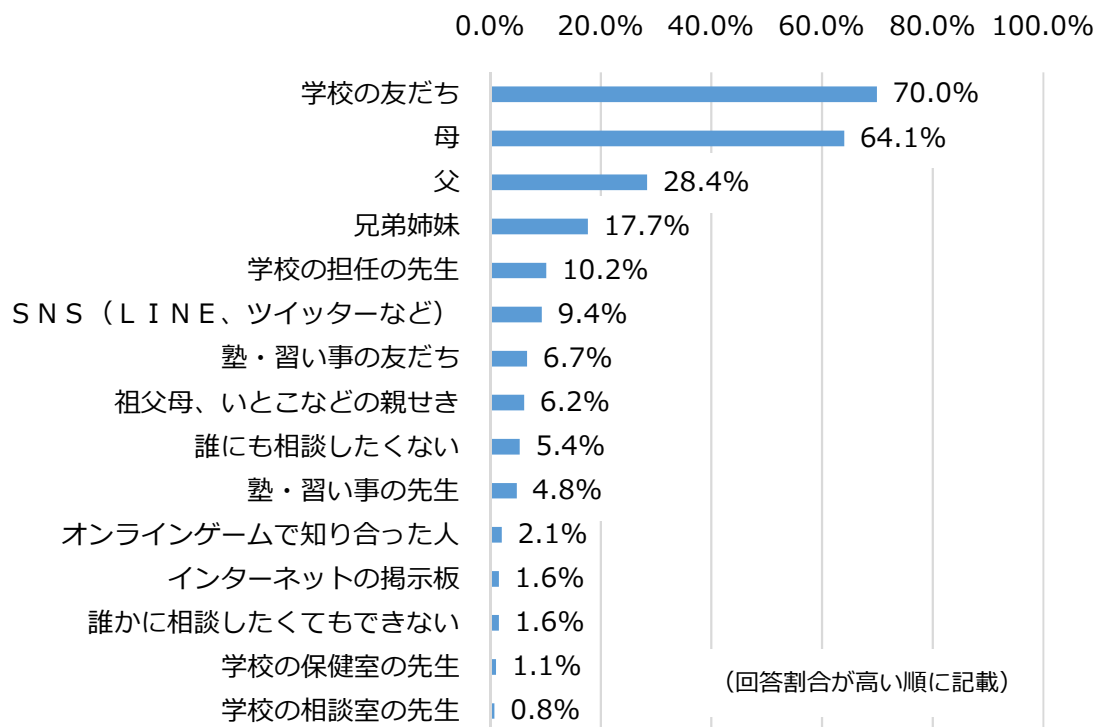
(小学生)



(中学生)



(高校生)



【「その他」の内容 (抜粋)】

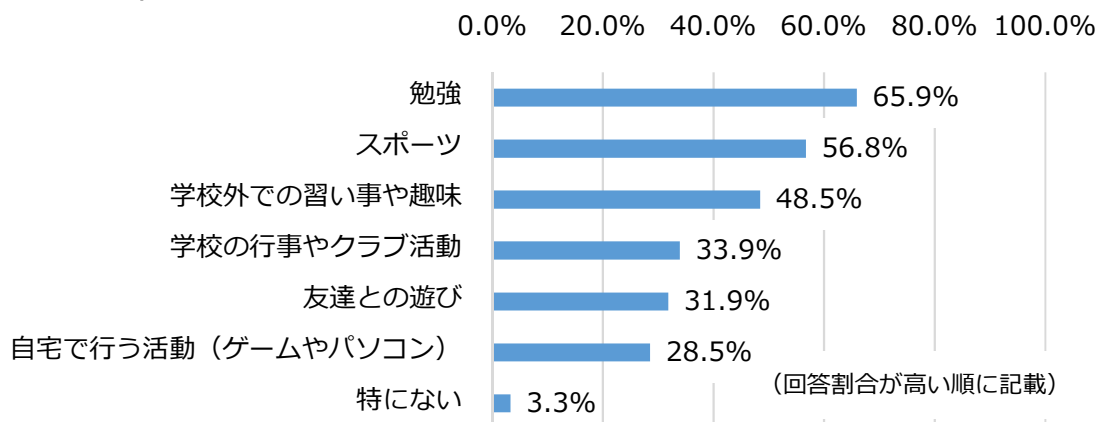
- ・ ペット
- ・ 幼馴染
- ・ 悩み相談の電話
- ・ 仲が良い子、親友
- ・ 友だちの親
- ・ ぬいぐるみ
- ・ 部活の先輩や顧問
- ・ 機械(グーグルアシスタント)
- ・ 恋人
- ・ 寝て忘れる
- ・ 自己完結 など

「小学生」については「母」の割合が最も高くなっていますが、「中学生」と「高校生」では「学校の友だち」の割合が最も高くなっています。また、「SNS (LINE・ツイッターなど)」を選んだ割合が、「小学生」は3.4%であるのに対して、「中学生」は10.4%、「高校生」は9.4%と高くなっています。

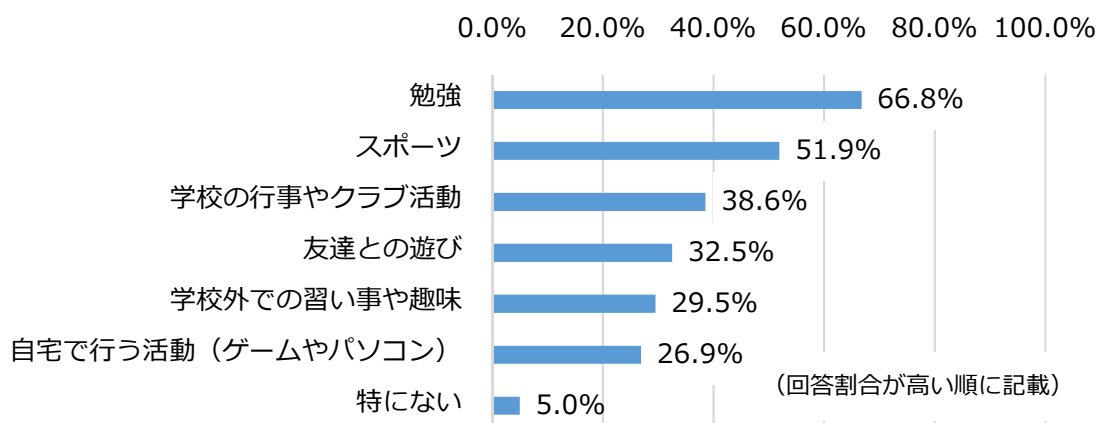
設問 1 2 あなたが現在頑張っていることや頑張りたいことはありますか。

【複数回答可】

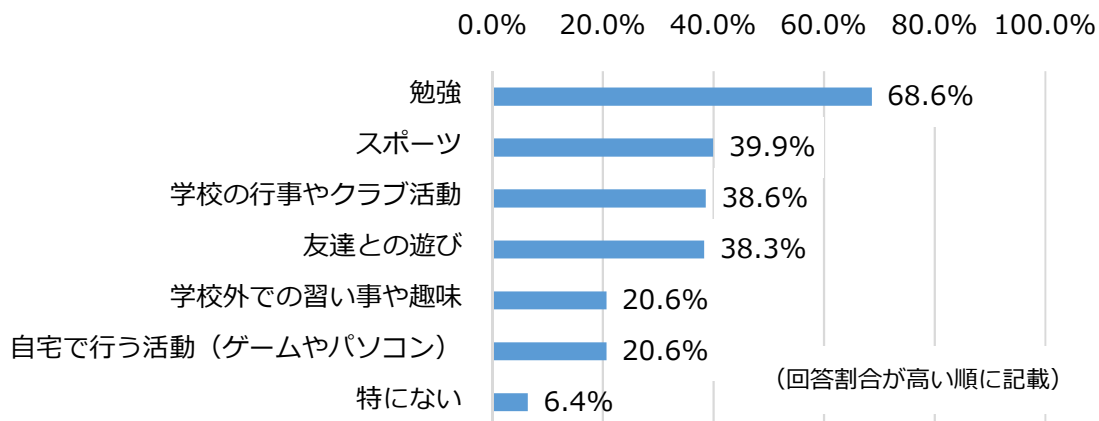
(小学生)



(中学生)



(高校生)



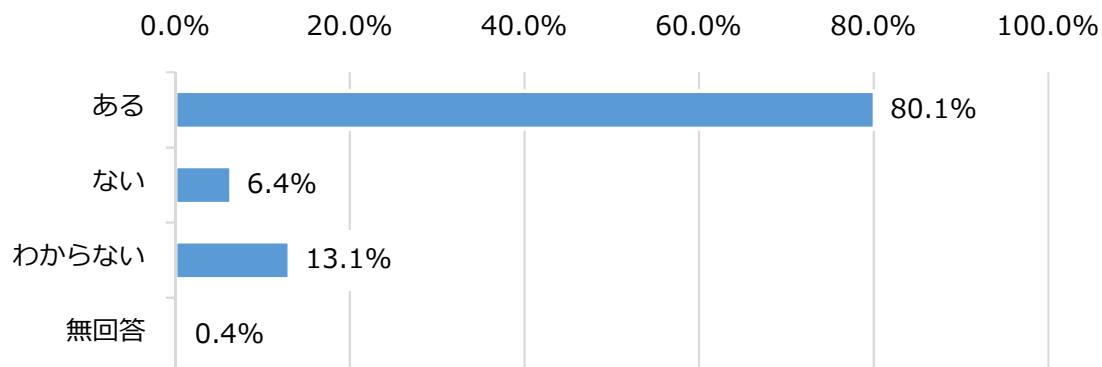
【「その他」の内容（抜粋）】

- ・家のお手伝い
- ・音楽
- ・受験・進路調査
- ・絵・イラスト
- ・グッズ集め
- ・読書
- ・ダンス
- ・委員会活動
- ・美容
- ・恋愛
- ・ダイエット
- ・自分磨き など

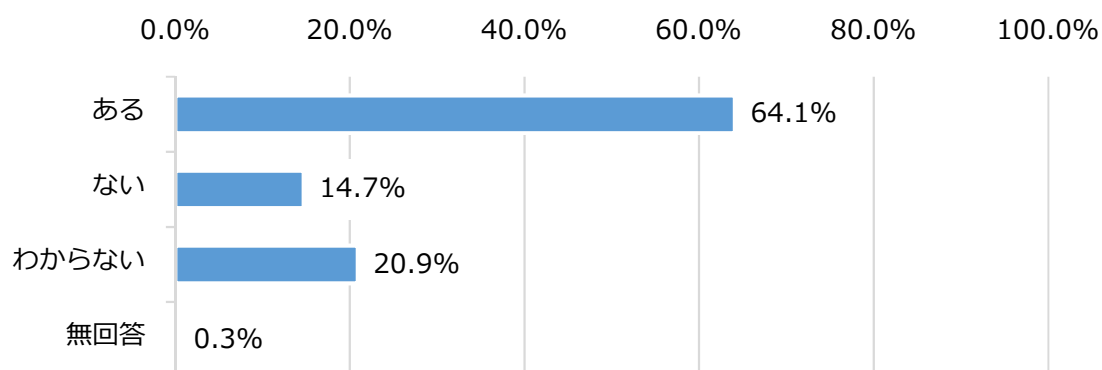
どの学校種別においても、「勉強」と「スポーツ」の割合が高くなっています。このほか、「小学生」については「学校外での習い事や趣味」の割合が高くなっている一方、「中学生」と「高校生」については、「学校の行事やクラブ活動」と「友達との遊び」の割合が高くなっています。

設問 1 3 あなたには将来やってみたいこと（夢や目標）がありますか。

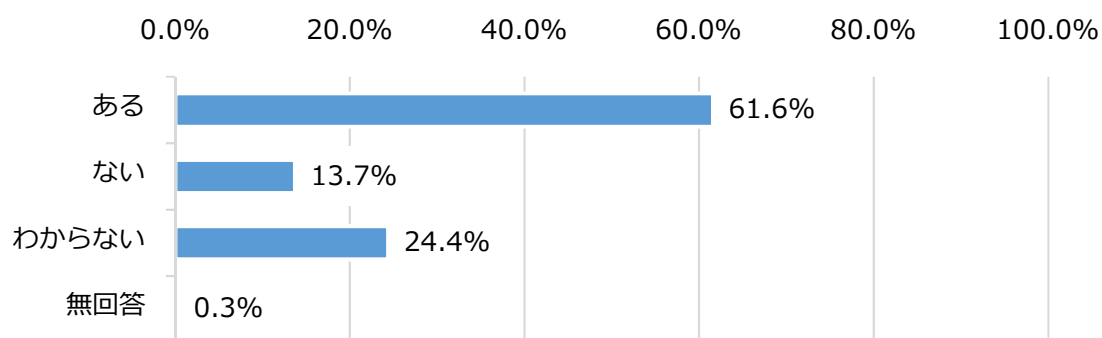
(小学生)



(中学生)



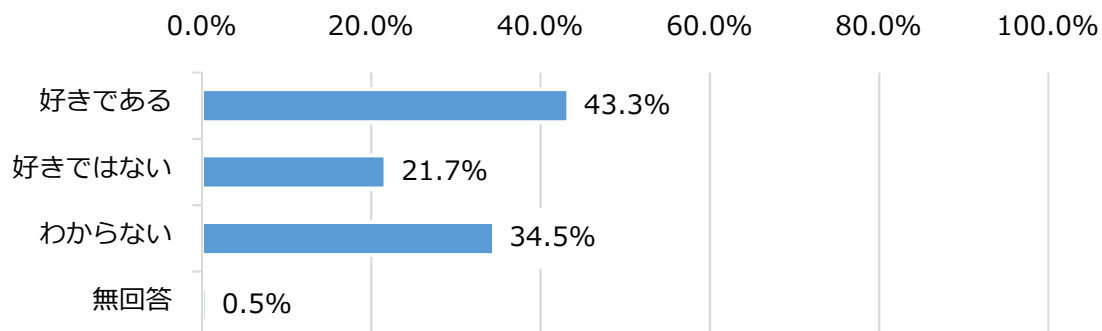
(高校生)



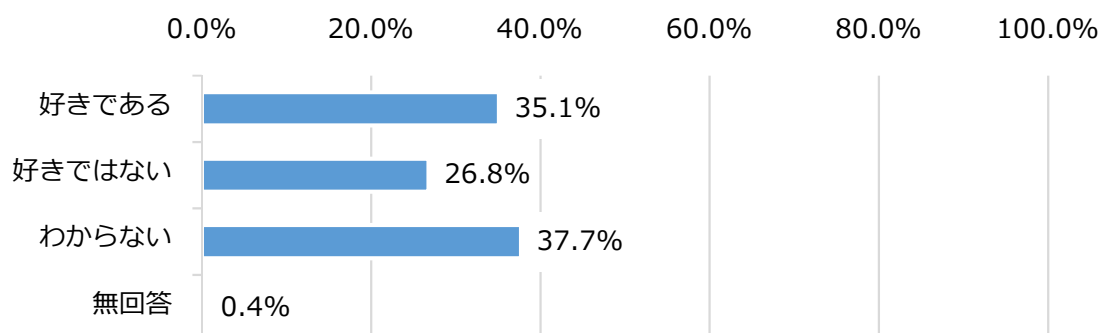
「小学生」については8割以上が「ある」と回答していますが、「中学生」と「高校生」についてはその割合が6割程度に下がり、「わからない」の割合が高くなっています。

設問14 今の自分が好きですか。

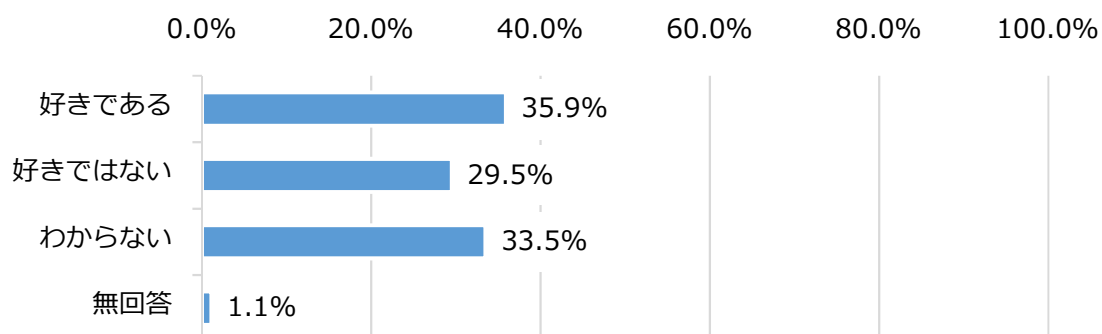
(小学生)



(中学生)



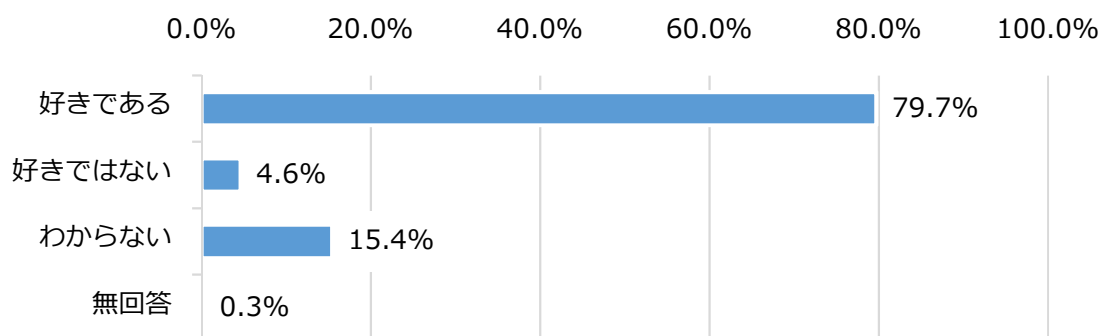
(高校生)



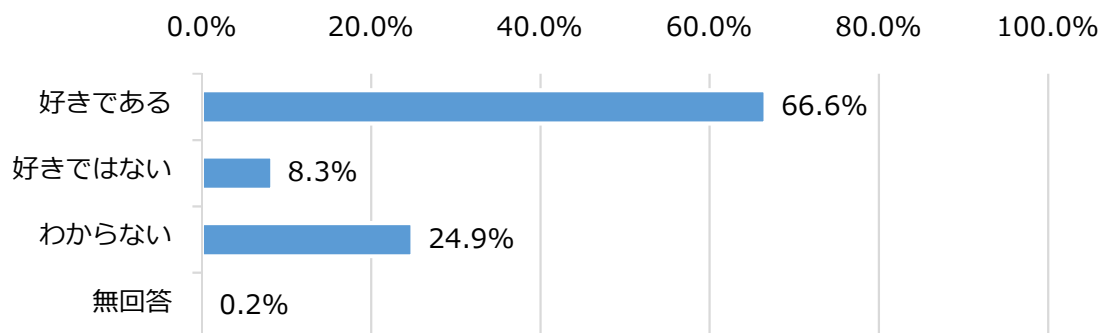
「小学生」については約4割が「好きである」と回答していますが、「中学生」と「高校生」になるとその割合が下がり、「好きではない」と回答する割合が高くなっていく傾向にあります。

設問15 川口のまちは好きですか。

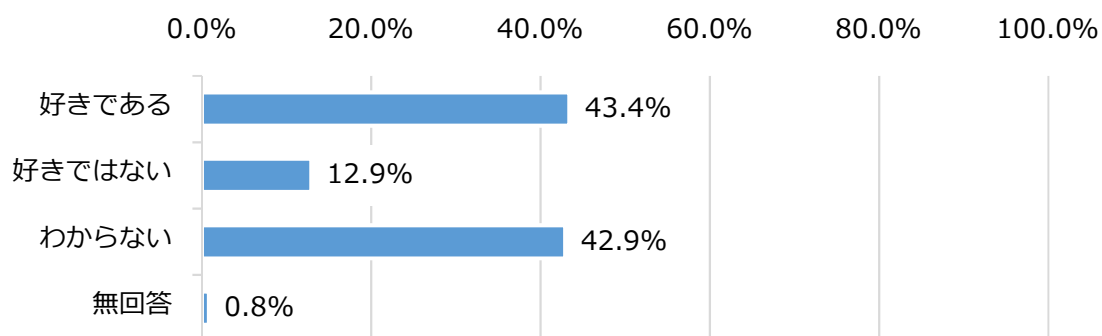
(小学生)



(中学生)



(高校生)



「小学生」については約8割が「好きである」と回答していますが、「中学生」と「高校生」になるとその割合が下がり、「好きではない」と回答する割合が高くなっていく傾向にあります。

設問16 設問15について、なぜそのように考えましたか。

(抜粋・順不同)

【川口が好きな理由】

- ・やさしい人が多いから
- ・自然が多いから
- ・ずっと住んでいるから
- ・住みやすい・過ごしやすいから
- ・都心へのアクセスがいいから など

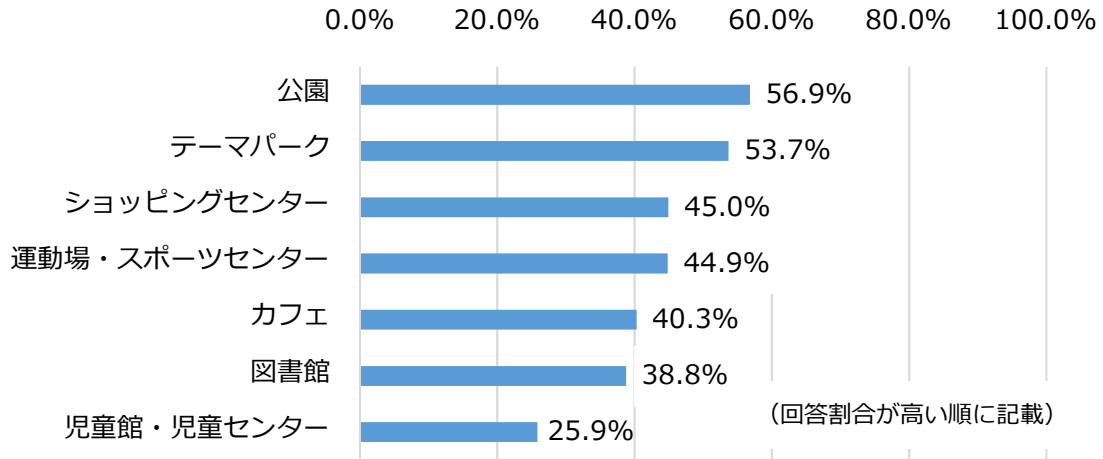
【川口が好きではない理由】

- ・治安が悪いから
- ・海が無い田舎だから
- ・ごみが散らかっているから
- ・不審者が多いから
- ・娯楽が少ないから
- ・公園に行くとボール禁止の看板を多く見かけるから
- ・他県に自慢できるものや川口といえばこうというものがないから など

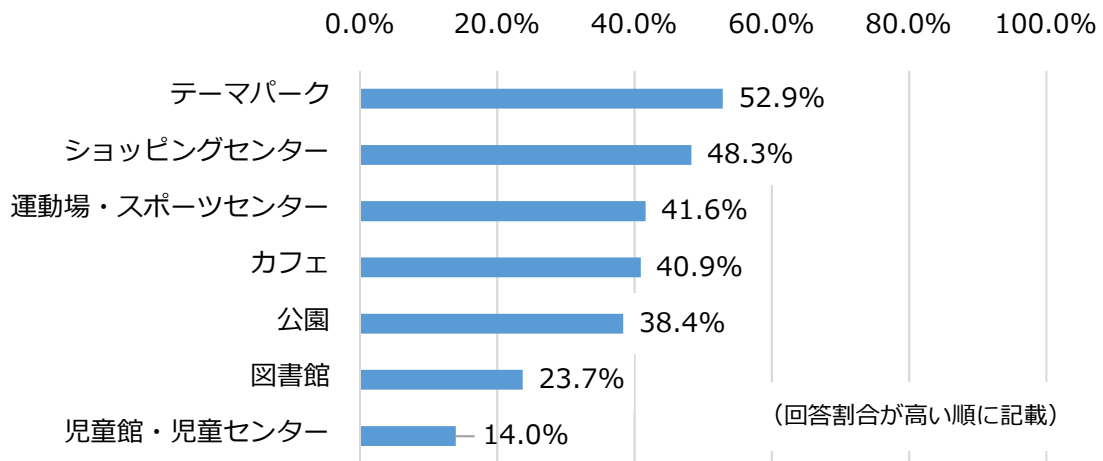
設問17 川口のまちをより良くするためには、何があればよいと思いますか。

【複数回答可】

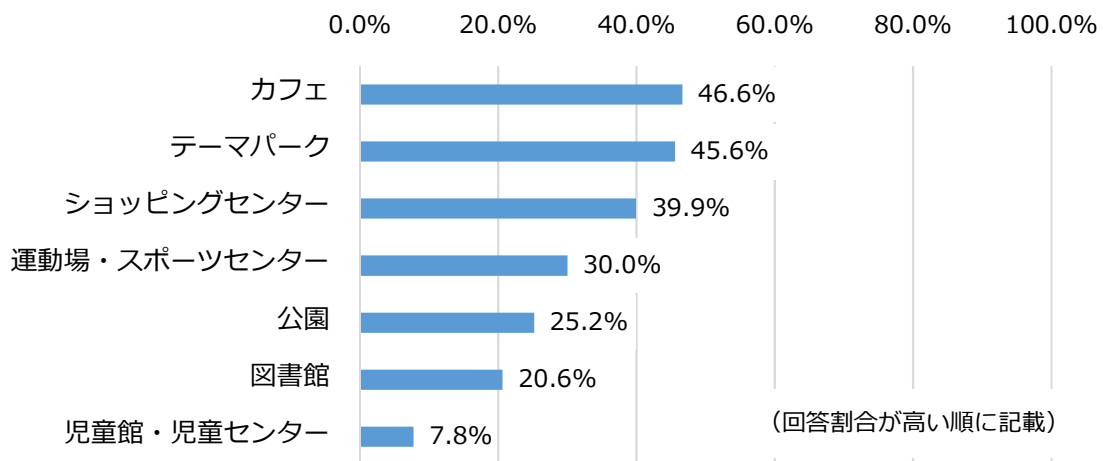
(小学生)



(中学生)



(高校生)



【「その他」の内容（抜粋）】

- ・水族館・博物館・美術館・動物園
- ・スケート場
- ・ペットショップ
- ・悩みのある子供が気軽に大人に話せるところ
- ・ベンチ
- ・大学
- ・体験型職業施設
- ・自習室
- ・ボールの使える場所
- ・楽器を吹ける場所
- ・警察署
- ・ゴミ箱
- ・清潔感のある環境
- ・海
- ・自然・緑
- ・百貨店
- ・ゲームセンター
- ・アスレチック
- ・観光地
- ・川口の町に思い出が出来るようなイベント
- ・世界遺産 など

「小学生」については「公園」という回答が一番多かったですが、「中学生」や「高校生」になると「ショッピングセンター」、「テーマパーク」という回答が多くなっています。

設問18 あなたが川口市長だったら何をしたいですか。

(抜粋・順不同)

- ・川口をきれいにして、安心して過ごせる川口にしたい。
- ・ゴミ捨て場をすべてボックス化して、カラスからの被害を守る！
- ・貧困や病を抱えている人や外国人、障害者などが安心して差別のない福祉の世界を作り、皆が川口市の行事やユネスコ無形文化遺産に載るほどの行事を作りたいです。
- ・大人も子供もわかるような川口市だけの良さを作っていききたい。
- ・学校や、仕事での、嫌みや、いじめなど、そんなことが一切起きない川口市にしたいです。
- ・川口にもっと自然を増やしたい。皆が生きやすいところになりたい。
- ・いろいろな人の意見を聞いて物事を進めていききたい。
- ・駅を大きくして、東京の駅みたいなきれいな駅を作る
- ・ボールで遊べる公園を作りたい他にも大きな公園を作りたいです。
- ・SDGsについて考え、地球温暖化を止めたい
- ・幼稚園児から小学生、中学生、高校生、大人、高齢者といった幅広い世代の人たちが交流できるような機会を作りたい。
- ・駅の近く（SOGOあたり）に SOGO を超えるようなデパートを作りたい。
- ・川口市の洪水リスクを減らす。
- ・図書館の自習スペースを増やしたり、使える時間を長くしたい。
- ・電灯が少ないところがあるので、防犯のためにも電灯を増やして明るくしたい。
- ・ポイ捨てがあるためゴミ箱を設置する。
- ・市民にアンケートをとって、政策を考えたり、東京の近くであることなどを利用して、ビジネスホテルを建設したり、住宅地を増やして東京のベッドタウン化を図る。
- ・川口の PR できる点を探し、川口と言えよというものをつくる。
- ・議会にいる各党の議員さんから話をまんべんなく聞き、一つに固めるのではなく子供も含めた考えを集めて議会で議論し市政に活かしていくことをすると思う。というかやってほしい。
- ・事故を減らすために、道路を広くしたり交差点をなるべく減らしたりして、交通整備に力を入れる
- ・万引きや殺人をする犯人は元々、自分で背負いきれなくなった何かをもって悪い立場に立ってしまうから、そういう人を一人でも早く助けられるようにしたい。
- ・もう少し緑を増やしたり子供にやさしい街にするために公園や、図書館を増やしてみんなが利用できるようにする。また、カフェなどを増やし落ち着ける場所を作る。
- ・川口駅に上野東京ライン又は湘南新宿ラインを停車させたい。（できれば上野東京ライン）

- ・気軽に市役所に意見できる、意見箱を設置する
- ・川口市に今よりもっとさまざまなスポーツのクラブチームをつくり、身体能力の向上を目指す
- ・東京が近いから安心してたくさんの人に住んでもらい、全国の人に埼玉と言ったら？と、聞いたときにみんなして、川口市！と言ってもらえるような市にしたい。そして、治安が良くみんなに嫌われなく、犯罪、いじめ、虐待、がなく子供が、大人がではなく、みんなに愛される市にしたい。そして、子供が泣かない市を作りたい。
- ・学生が勉強出来て気軽に行けるカフェを作る
- ・川口銀座通りの活性化
- ・学生と高齢者のふれあう機会を作る
- ・公園でもボールを使った遊びができるようにネットを設置するなどして子供の遊び場の制限を少なくできるようにしたい

【クロス集計結果】

(1) 「安心できる場所」(設問2)と「今の自分が好きであるか」(設問14)

| 【小学生】 | | 今の自分が好きか | | | |
|--------------------------------|--------------|----------|--------|-------|------|
| | | 好きである | 好きではない | わからない | 無回答 |
| 過安 場ご 所心 せし て る | 自宅が 含まれる | 45.7% | 19.5% | 34.4% | 0.4% |
| | 自宅が 含まれない | 19.9% | 42.6% | 35.8% | 1.6% |

| 【中学生】 | | 今の自分が好きか | | | |
|--------------------------------|--------------|----------|--------|-------|------|
| | | 好きである | 好きではない | わからない | 無回答 |
| 過安 場ご 所心 せし て る | 自宅が 含まれる | 37.8% | 23.8% | 38.0% | 0.3% |
| | 自宅が 含まれない | 15.6% | 47.9% | 35.3% | 1.2% |

| 【高校生】 | | 今の自分が好きか | | | |
|--------------------------------|--------------|----------|--------|-------|------|
| | | 好きである | 好きではない | わからない | 無回答 |
| 過安 場ご 所心 せし て る | 自宅が 含まれる | 37.4% | 28.0% | 33.7% | 0.9% |
| | 自宅が 含まれない | 13.0% | 52.2% | 30.4% | 4.3% |

「安心して過ごせる場所」に「自宅が含まれない」場合、「自宅が含まれる」場合と比べて、今の自分が「好きではない」という回答が、20%以上高くなっています。

(2)「家族に自分の考えが大切にされていると思うか」(設問4)と「家族に自分の考えを伝えているか」(設問5)

| 【小学生】 | | 家族に自分の考えを伝えているか | | | |
|----------------------------------|------|-----------------|--------|----------------|-------|
| | | 伝えている | 伝えていない | 自分の考えを伝える場面がない | 無回答 |
| 大切にされているか 家族に自分の考えが 思っているか | 思う | 83.3% | 14.3% | 2.1% | 0.3% |
| | 思わない | 37.8% | 44.7% | 16.6% | 0.9% |
| | 無回答 | 43.3% | 20.0% | 13.3% | 23.3% |

| 【中学生】 | | 家族に自分の考えを伝えているか | | | |
|----------------------------------|------|-----------------|--------|----------------|-------|
| | | 伝えている | 伝えていない | 自分の考えを伝える場面がない | 無回答 |
| 大切にされているか 家族に自分の考えが 思っているか | 思う | 83.3% | 15.1% | 1.4% | 0.2% |
| | 思わない | 41.8% | 44.2% | 13.3% | 0.7% |
| | 無回答 | 15.4% | 23.1% | 15.4% | 46.2% |

| 【高校生】 | | 家族に自分の考えを伝えているか | | | |
|----------------------------------|------|-----------------|--------|----------------|-------|
| | | 伝えている | 伝えていない | 自分の考えを伝える場面がない | 無回答 |
| 大切にされているか 家族に自分の考えが 思っているか | 思う | 87.9% | 11.5% | 0.3% | 0.3% |
| | 思わない | 57.1% | 42.9% | 0.0% | 0.0% |
| | 無回答 | 66.7% | 0.0% | 0.0% | 33.3% |

※縦軸について、「思う」には「どちらかというと思う」、「思わない」には「どちらかというと思わない」をそれぞれ含めて計算しています。

※横軸について、「伝えている」には「どちらかという伝えている」、「伝えていない」には「どちらかという伝えていない」をそれぞれ含めて計算しています。

家族に自分の考えが大切にされていると「思わない」と回答した場合、大切にされていると「思う」と回答した場合と比べて、家族に自分の考えを「伝えていない」割合が約 30%高くなっています。また、「自分の考えを伝える場面がない」との回答も 10%以上高くなっています。

(3)「家族に自分の考えを伝えているか」(設問5)と「夢や目標があるか」(設問13)

| 【小学生】 | | 夢や目標があるか | | | |
|-----------------|----------------|----------|-------|-------|------|
| | | ある | ない | わからない | 無回答 |
| 家族に自分の考えを伝えているか | 伝えている | 82.8% | 5.3% | 11.6% | 0.3% |
| | 伝えていない | 70.8% | 10.3% | 18.5% | 0.5% |
| | 自分の考えを伝える場面がない | 65.7% | 13.4% | 20.9% | 0.0% |
| | 無回答 | 71.4% | 4.8% | 14.3% | 9.5% |

| 【中学生】 | | 夢や目標があるか | | | |
|-----------------|----------------|----------|-------|-------|-------|
| | | ある | ない | わからない | 無回答 |
| 家族に自分の考えを伝えているか | 伝えている | 67.0% | 13.7% | 19.1% | 0.1% |
| | 伝えていない | 53.8% | 17.9% | 27.8% | 0.4% |
| | 自分の考えを伝える場面がない | 52.0% | 24.0% | 24.0% | 0.0% |
| | 無回答 | 46.2% | 7.7% | 23.1% | 23.1% |

| 【高校生】 | | 夢や目標があるか | | | |
|-----------------|----------------|----------|-------|--------|-------|
| | | ある | ない | わからない | 無回答 |
| 家族に自分の考えを伝えているか | 伝えている | 61.6% | 12.4% | 26.0% | 0.0% |
| | 伝えていない | 66.0% | 23.4% | 10.6% | 0.0% |
| | 自分の考えを伝える場面がない | 0.0% | 0.0% | 100.0% | 0.0% |
| | 無回答 | 0.0% | 0.0% | 50.0% | 50.0% |

※縦軸について、「伝えている」には「どちらかという伝えている」、「伝えていない」には「どちらかという伝えていない」をそれぞれ含めて計算しています。

家族に自分の考えを「伝えている」と回答した場合、将来の夢や目標が「ある」と回答した割合が「伝えていない」と回答した場合と比べて10%以上高くなっています。

【アンケート結果の考察】

- ①自宅が安心できる場所でない場合、子どもが自分を好きでない（≒自己肯定感が低い）傾向がある。【クロス集計（1）、設問11】
- ・必要に応じて、子どもだけでなく家庭への支援を行うことが重要である。
 - ・特に小学生については、悩みごとを母親に相談する割合が高く、保護者の相談窓口も必要である。
- ②子どもが家族に自分の考えが大切にされていないと考える場合、家族に自分の考えを伝えていない傾向がある。【クロス集計（2）】
- ・子どもの権利（参加する権利、意見表明権）を保障する前段階として、まず大人が子どもの考えを大切に考える必要がある。
- ③家族に自分の考えを伝えている場合、将来の夢や目標を持つ割合が高くなる。【クロス集計（3）】
- ・子どもが大人に考えを伝えること自体が、子どもの将来にとって大切である。
- ④年齢が進むにつれて、家族、学校以外の大人と接しない子どもの割合が増える傾向がある。【設問8・9】
- ・社会と接する機会が少ないと、子どもの視野が広がらない恐れがある。
 - ・子どもに何らかの異変があったとしても、周りの大人が気付くことができず、対応が後手に回る恐れがある。

第2回川口市社会福祉審議会児童福祉専門分科会 (仮称) 子ども条例検討部会 議事録(抜粋)

開催日時 : 令和4年7月12日(火)

【事務局注記】

第2回検討部会終了後、条を入れ替えたため、条文の番号を今回の資料に合わせて変更している。

○委員

第3条 基本理念に「(4) 前3号」とあるが、条文の場合は「前3カッコ」ではなくそのように表現するのか。

○事務局

文章の表現については、今後、庁内の法規担当に確認しながら進めたいと思っている。

○委員

基本理念が「～すること」と表現されており、他自治体に比べて、この条例においてやらなければならないことが明確になっていてよい。

○委員

第5条 保護者の役割の「子どもを心身ともに健やかに育てることについて第一義的責任を負うことを自覚し」という表現だけでは、子育ては家庭の問題であると捉えられてしまうのではないだろうか。児童福祉法第2条第2項を参考にしてしていると解釈したが、児童福祉法ではその次の第3項に「国及び地方公共団体は、児童の保護者とともに、児童を心身ともに健やかに育成する責任を負う」とあることから、子どもたちの健やかな成長のための、各機関の役割が盛り込まれていることが分かる。前回の会議で参考資料として配布された「ふじみ野市子どもの未来を育む条例」には、「保護者は、子育てについて第一義的な責任を有すること及び困ったときは一人で不安等を抱え込まず、周りに必要な協力を求めることが重要であることを自覚し」とある。このように、第一義的責任を負うことに限定せず、困ったら色々な機関へ相談できるということも含めて表現できるとよい。過去の育児放棄による事件についても、その家庭だけの問題ではなくて、各機関が連携して家庭を支えられたら救えたのではないかと思う。

○委員

第4条 市の責務の「保護者とともに子どもを心身ともに健やかに育成する責任を負うことを自覚し」について、学校での経験を踏まえた意見をお伝えしたい。保護者の中には子育てに悩んでいるかたが多く、私も毎日のように担任とともに保護者からの相談を受けている。保護者が困ったときは、学校に通っていれば学校に連絡が来るが、市の子育て相談課へ相談しようとする、予約が2か月待ちになることがある。困っているのは今なので、2か月も待てない。その場合は、まず学校で話を聞き、次に外部のどこへ取り次ぐべきかを学校が調整しているのが現状である。人手不足により難しいことなのは分かっているが、市の責務が形だけにならないように、重点的に人員を配置することができると思う。

○事務局

条例制定後の施策の実施や計画策定に関係することだと思う。このお話も踏まえてどのように進めていくか、今後の大切な検討事項として受け取らせていただきたい。

○委員

第12条 子どもの権利の侵害等への対応に、児童虐待についての記載がある。学校では、身体の

あざや言動から、虐待が疑われる子どもが見つかることがある。その場合は児童相談所に連絡し、一時保護などの対応をとってもらうが、そうすると必ず保護者と学校が衝突する。学校としては法令に従って動いているだけだが、保護者の怒りの矛先が学校に向かってしまう。そこで、第三者の立場として教育委員会などの機関が間に入ってくるとありがたい。条例や施策が、現場の人間が恩恵を受けられるものや、市と学校が連携できるような内容になるとよいと思っている。

○事務局

市の責務である支援を行うための、市の組織の体制づくりにかかわる内容だと思う。連携の方法を見直すきっかけにするなど、どのような場面に活用するか、今後検討していきたい。

○事務局

学校以外にも、病院の医師や近所のかたが児童虐待を発見する場面があり、どの場合であっても、発見したかたが保護者を恐れて通報をためらうことはあってはならないと考えており、現在も通報の啓発活動を行っている。この条例を作ることによって、市としてそのような姿勢を更に強く出していくことが大切であるとする。事業者、保護者、市民全体に広く啓発できるように考えながら進めていきたい。

○委員

家庭内で虐待を受けたため児童相談所が3か月ほど保護していた子どもが、学年が変わるタイミングで自宅へ帰ることになった。そのためには学童保育を利用しなければならないが、受け入れ先が見つからず、児童相談所から私のところに電話がかかってくる。うちの学童保育で預かることになった。このような子どもの人権を守るためには、児童相談所から家庭に戻った後も、学校での生活も含めて連携が必要なので、学校と学童保育と市の支援課で協議会を開くよう要望した。しかし、どの機関も多忙や人手不足であるため、当初は4月に行う予定だった会議が8月になってしまった。

このように一人の児童の問題から色々なことが見えてくる。子ども条例ができた後に、川口市は問題解決に向けてどう進めていくのか、組織が機能するようにどう作っていくかが、大変な課題になると思う。

○委員

体罰に関連して、実際に経験した話を紹介したい。5～6年前の夕暮れ時に公園を散歩していたら、4～5人の中学生が電柱や塀をよじ登って、施錠されているプールの中に入っていった。パトカーと消防車が来て、人だかりができて大変な騒ぎになった。逃げようとした一人が2メートルほどの高さの場所から下りられなくなったため、消防士が救助したが、その子や友人はお礼を言わないどころか警察官や消防士に罵詈雑言を浴びせていた。警察署へ連行しようとするやと反抗し、消防士の胸倉を掴むような勢いだった。その子たちの言動から、「体罰はいけないことなので、もし子どもが大人に手を出しても大人はやり返せない」と分かってやっている様子だった。学校でもこのような子どもの指導は大変なのだろうと思う。殺人など悲しい事件を耳にするが、親を殺してしまう子どもや先ほどの中学生たちはどのような環境で育ったのか、という過程を考えることが大事だと思う。

私が所属する青少年団体連絡協議会は青少年に関する活動を行っており、子どもたちの育ちへの支援をしている。第10条に入るのか第11条に入るのか分からないが、子どもの育成を応援する団体の活動の支援と、子どもたちを指導するリーダーの育成に対する支援を条例に盛り込んでいただけるとありがたい。また、子どもの会員の人数が減っている。これは少子化の影響だけではなく、保護者の見方も変わってきているためではないだろうかと思っている。我々はボランティアとして活動する団体だが、所属していると、子どもだけではなく親である自分の成長も期待できると感じる。市からのより強い支援をお願いしたい。

○事務局

青少年団体に対する支援もリーダーの育成も、どちらも子どもにとって大事な環境を整えるということなので、条例においてどのように生かせるか今後検討していきたい。

○委員

子どもの定義として、18歳という原則の他に「子どもの範囲は別に定める」とされている。これにかかわる事例を紹介したい。18歳で児童養護施設を出た子どもたちは、勉強したい場合は、今度は大学や専門学校などに入って自立するということで何の保障もなく生きていかなければならない。また、生活保護を受けている子どもが18歳になって大学に入ると、保護は打ち切られる。しかし、子どもの未来を保障するためには、年齢で区切らずに、国や市が積極的に応援することが必要であると思う。これが第11条の未来応援や第14条の配慮が必要な子どもにつながる。

世田谷区の若者フェアスタートという制度は、児童養護施設を出た子どもたちが大学などに入った際に保障するものである。東京都にも似た制度があり、大学を卒業するまで学費などを援助する。給付ではなく貸付だが、卒業後に5年間仕事をすれば返還しなくてよい。このような制度は財政状況に余裕がないとできないことではあるが、川口市も、児童養護施設を出た子どもや学費に苦労している子どもに対して、未来を保障するという大事な役割を果たしてほしい。

○委員

児童養護施設を出た学生の話があったが、他にも、困ったりいじめられたりして相談したいというかたは多い。18～20歳のかたは市のどこへ相談したらよいか。

○事務局

悩みや相談の内容によって窓口は異なるが、例えば学校や職場で困りごとがある場合の心の相談については、イオンモール川口前川の「こころサポートステーションSODA川口」で受け付けている。これは、これまで支援の不足が指摘されていたいわゆる若者世代の15～35歳を対象に、川口市保健所が主体となって設置した相談窓口である。相談のハードルを下げるためにショッピングセンターの中に設けた。市としても、まず最初に駆け込める場所が必要だと考えており、この事例を含めて今後も相談受付体制を整えていければと思っている。

○委員

第19条 広報及び啓発について、文章だけではなく画像も取り入れた分かりやすい資料を作成するとよいと思う。学生向けのほかに保護者向けも作成し、学校の保護者会や入学説明会で説明すると、保護者にも認知してもらえと思う。

○委員

保護者の役割や家庭・養育環境への支援とあるが、福祉に携わっていると、保護者が子どもへ愛情を自然に注げなくなっていることが、児童虐待の原因の一つなのではないかと思う。家庭環境が普通の状態であれば普通に子どもに愛情を注いで育ていけるものが、一人で子育てをしていて周りに相談しづらいなど、何らかの理由で環境が歪んでしまって、凄惨な事件を引き起こしてしまうのではないかと感じることも多い。保護者が子育てしやすいように周りが環境を整えることなど、支援についての記述を条例の前文に載せると、より温かみが出ると思う。

○委員

ある刑務所に詩人を招いて、婦女暴行や殺人などを犯した人たちに詩の授業を受けさせた。一人が書いた詩をきっかけに、他の人たちも自分の経験を話し始めた。過去に周りから認められることがなかった子たちが、そこで初めて認められるということを体験した。

私たちが生きていくことの素晴らしさを子どもたちに向けてどのように発信するかが、子どもたちを変えていく大きな力になるのではないかと思う。

第3回川口市社会福祉審議会児童福祉専門分科会 (仮称) 子ども条例検討部会 委員からのご意見(概要)

開催日時 : 令和4年9月26日(月)

【アンケート結果について】

- アンケート結果の考察に「家庭への支援を行うことが重要である」とあるが、そのとおりだと思う。障害のある、または発達に不安がある子どもの保護者と面談を行っているが、相談相手が分からないという人が多い。相談機関の周知に力を入れているのは分かるが、その情報が行き届いていないと感じる。
- 両親の間で子育てに関する考えが異なっている場合や、片方の親が子育てに無関心である場合には、もう片方の親が孤立し、さらに悩みを抱えてしまっている印象がある。
- 成長が進むにつれて自己肯定感が低くなる傾向にある。特に中学生は心が不安定になりやすい時期であり、強く支援していかなければならないと思う。
- 赤ちゃんがいる母親は悩みを打ち明けてくれることも多いが、小中学生本人やその親を支援しようとしても、なかなか心を開いてもらえない。子どもが成長してから支援しようとしてももう遅く、妊娠・出産期や子どもが小さいうちから長く支援していくことが必要だと感じている。
- 子どもがある程度成長すると、子ども本人からも保護者からも急に周りに SOS を出すことは難しい。支援を提供する側が、支援を必要としている人にきちんと届く方法で広報を行うことが必要である。また、支援を必要としている人に早い段階から「周りに頼ってよい」という意識付けをしていくことが大事だと思う。援護や支援を受ける力である「受援力」が足りず、周りに頼れずに孤立していつてしまうことがある。
- 市の「るるる」(子ども発達相談センター)での面談が申し込みから2か月後になるなど、相談機関がパンクしている状況である。人手が足りていないことはもちろん、市の窓口だと相談できる時間が朝8時30分から夕方5時15分までであることも悩ましい。
- 「安心して過ごせる場所」について、年齢が上がるにつれてインターネットや SNS が増えている。最近技術も激しく変わっているので、今後、その時々に応じて「子ども像」を捉えていかないと時代に合わなくなってしまう。
- 子どもの相談相手について、父の割合が低い。日本的な環境のひとつの現れだと思うが、お父さんたちをもう少し家族の中で主役にするようなことが、子ども条例だけではなく、国の働き方の問題、男性の働き方も含めて、大きな課題であると思う。

【条例案について】

- 前回に比べて、堅苦しい表現を省いて滑らかになって、全体的に温かみのある言葉に仕上がっていると思う。これを今後どのように広報するかが課題だと思う。冊子を作っても素晴らしいと思うが、例えばファイルのようなものを作り、ランドセルとかバッグにいつも入れておけるようにすると、子どもの目につきやすくなると思う。子ども自身が、自分のことは自分で守るという意識も高めていきたい。
- パブリック・コメントに出して、いろんなご意見が寄せられるかと思うので、それを受けてまた直していくというかたちで十分ではないかと思う。
- 今後の取り組みになるが、子ども向けの解説書を作っていくことが大事だと思う。

(仮称) 川口市子ども条例 川口市要保護児童対策連絡協議会構成員からの意見

1 意見聴取の方法

令和4年8月に開催された川口市要保護児童対策連絡協議会代表者会議（書面会議）にて委員あてに関係資料を送付し、意見を得たもの

2 意見の内容

下記のとおり

| No. | 【発言者】 | 【意見】 | 【対応方針】 |
|-----|-------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------|
| 1 | 福祉総務課 | 「児童の権利に関する条例の精神にのっとり」とあるのは、条約の中で規定している子どもの権利を網羅していると解釈できますが、具体的に子どもの権利を列挙して記載したほうが良いと思います。条約の権利規定の条文をそのまま記載する必要はないと思いますが、条約を読んでいない市民等が多いと思いますので、具体的なほうが理解しやすいと思います。 | 子どもの権利の内容については、逐条資料の中に具体的に記載するようにします。 |
| 2 | 福祉総務課 | 市民等の努力義務に関し、関心及び理解を深めること、施策及び取組に協力することが規定されていると思いますが、「地域で子どもの見守る」等具体的な協力内容を記載したほうが、市民等の啓発につながると思います。 | ご指摘を踏まえ、第6条に追記しました。 |
| 3 | 保健所 | 子どもへの安全に対する配慮とともに、心に傷を抱える子どもや、発達などに問題がある全ての子どもに対して、専門的ケア（診察やカウンセリング、療育支援など）が確実に行われるよう、子どもの権利が尊重されることが大切である。 | 条例第14条の「配慮が必要な子ども」の内容を具体化しました。併せて、逐条資料において、心に傷を抱える子どもへの支援や専門的ケアについて記載いたします。 |
| 4 | 保健所 | 保護者に対する支援が十分に行われなければ、機能不全状態の家庭で育児が継続されることとなるため、保護者への支援にもさらに力を注ぐべきだと考える。 | 条例第13条で「課題を抱えた家庭の支援」を行う旨を規定しております。併せて、逐条資料において、保護者支援を十分に行う必要がある旨を記載いたします。 |

(仮称) 川口市子ども条例 関係者ヒアリング結果について

【調査概要】

1 調査目的

子どもの居場所となっている児童センターの職員から、現在の子どもの様子や、センターの活動状況などについて考えを聞くもの。

2 ヒアリング対象

川口市南平児童センター（指定管理者：川口市社会福祉事業団）

※川口市南平福祉会館の2階

本センターでは、地域子育て支援拠点事業を実施しているほか、センター内に子ども家庭相談室が設置されている。また、会館の1階には南平保健ステーション（子育て世代包括支援センター）などが設置されている。

3 調査日

令和4年9月21日

4 調査方法

事務局（子ども総務課）職員がセンターを訪問し、センターの職員にヒアリングを実施

※当初、（仮称）子ども条例検討委員会【庁内】と児童福祉専門分科会（仮称）子ども条例検討部会【外部委員】の合同会議にてヒアリングを行う予定としていたが、新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、ヒアリングの時期と方法を変更した。

【聞き取り結果】

- ・ 10年前は下駄箱に靴が入りきらないくらい子どもが来ていたが、(コロナ前の) 5～6年前から児童センターに来る小学生は減少傾向である。核家族や共働きの家庭が増えて学童に行く子どもが増え、学童に行かない子どもは塾に行っているのではないか。
- ・ 現在は、コロナの影響で小学生の来館が少なくなっている。もし来館したとしても、コロナの影響で密になるような活動はできず、(コロナ前にやっていた) 卓球や人生ゲームもできない。正面に仕切り板を置いてオセロを行うことはできるようになった。そもそも、この施設にある遊びが今の子どもに響くかどうかと思っている。
- ・ 日中は未就学児とその親の来館が多い。保健ステーションから紹介されて来館することもある。核家族化が進み、相談相手を求めて来館する親もいる。このセンターには元々保育士をしていた職員が多くいるので、親からの相談にも対応できている。
- ・ 気になる子どもについては、子ども家庭相談室や保健ステーションの職員、学校などと連携して対応している。学校には行けていないが児童センターには来ている子どももいる。
- ・ 中高生については、小学生時代から児童センターに通っていた子どもが相談に来ることがある。
- ・ 夏休みの児童センターのお祭りでは、子どもに実行委員をやってもらい、楽しそうにしていた。今年の7月には、新日本フィルに演奏に来てもらった。地域との関わりという意味では、町会と連携して書き初めの募集を行った。